

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

北海道胆振東部地震 被災者支援活動報告書



レスキューストックヤード代表理事 栗田暢之

北海道胆振東部地震から1年以上の月日が流れました。思い起こせば、地震直後の被災者は、突然の揺れと断続的に続く余震の恐怖に怯えつつ、その後、日を経るごとに落ち着きを取り戻したのも束の間、今度は、暮らし再建への不安を揃って口にし始めました。RSYは、震災がつなぐ全国ネットワー

ク（震つな）等の仲間と共に、被災者の一番近いところに出向き、この間の心の叫びを、「足湯」を通して繰り返し聴いて参りました。距離や費用の課題はありますが、今まだ再建途上にある被災者の声なき声に向き合って参りたいと考えています。引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

レスキューストックヤード常務理事 浦野愛

RSYは、日ごろのネットワークと多くの支援者のお力添えを頂き、避難所や仮設住宅の環境改善、自力再建者の個別訪問、足湯や家の相談会などの生活支援に取り組んできました。私たちが常に心掛けてきたのは、『被災者一人ひとりの声に耳を傾ける』こと、そして、『地元の力を信じ、応援する』

ということでした。震災発生から翌月に産声を上げた「北海道足湯隊」の活動は、まさに地元の力の象徴だと感じます。今後もこの活動に関わらせて頂きつつ、復興道半ばの被災地の皆さんを応援していきたいと思います。

レスキューストックヤード事務局スタッフ 吉林奏

北海道胆振東部地震が発災して1年が過ぎました。発災から20日後に現地入りし、当初から避難所での足湯を通じ、ひたすら被災者の声に耳を傾けてきました。地震から数か月の活動の中で印象に残っているのは、「いっそのこと全部放り出して、どこかへ逃げてしまいたい。でも日本全国どこへ行っても災害だらけよね」「記者でもない、こうして足湯してくれるあなた達だから、気持ちを話

せたんだ」という言葉は、1人でも多くの地元支援者を被災地に繋げたいと感じた瞬間でした。1年経過した現在でも、当時のことを話すと涙を流す方がおられ、北海道足湯隊はじめ地元支援者が、そうした声に丁寧に寄り添い続けています。今後も地元支援者とともに、被災地の皆さんに寄り添い続けたいと思います。引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

むかわ町・厚真町・安平町の概要

【むかわ町】

- ・人口は約 8,000 人、面積約 711.36 km²。2006 年 3 月に穂別町・鶴川町が合併し、新町「むかわ町」が誕生しました。
- ・特産品は、「鶴川ししゃも」「ほべつメロン」「むかわ和牛」など。町魚でもある「鶴川ししゃも」は、「むかわグルメフェスタ」など様々なイベントで味わうことができます。
- ・国内最大の恐竜全身骨格化石「むかわ竜」が発掘された町で、2016 年熊本地震で被災した御船町とは、「にっぽん恐竜協議会」のメンバー同士。このご縁から、むかわ町へ行政職員の派遣を行いました。

【厚真町】

- ・人口は約 4,600 人、面積 404.61 km²。
- ・特産品は、「ハスカップ」「さくら米」「大豆」など。
- ・「あつま田舎まつり」や「あつま国際雪上（3 本引き大会同時に 3 本の綱を使って行う綱引き）」など、年間通して数々の催し物が行われています。

【安平町】

- ・人口は約 8,000 人、237.16 km²。早来町・追分町が合併しました。
- ・早来は軽種馬の産地であり、追分はアサヒメロンと赤いひまわりが特産。
- ・2019 年 4 月には、「道の駅あびら D51 ステーション」がオープンしました。



北海道胆振東部地震の被害概要（2019 年 4 月現在）

2018年9月6日3時07分発生。北海道胆振地方中東部を震央として発生した地震。地震の規模はM6.7、震源の深さは37 km。最大震度7は、北海道で初めて観測されました。主力電力である苫小牧厚真発電所をはじめとした北海道内全ての発電所が停電（ブラックアウト）。震源地に近い地域は、土砂崩れにより一時、道路が寸断されていました。

■震度7 厚真町

震度6強 安平町、むかわ町

震度6弱 千歳市、日高町、平取町、札幌市東区

その他、北海道から中部地方の一部にかけて、震度5強～1を観測。

■人的被害 死者 44名（内、厚真町37名）※災害関連死3名。

■住宅被害 全壊 479棟

半壊 1,736棟

一部損壊 22,741棟

■被害総額 1,620億8,900万円

活動年表

2018年	9/12～14	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）からの要請を受け、現地入り（栗田・浦野）	
	9/24～30	むかわ町「救護班」のミーティングに参加（栗田・浦野・吉林） むかわ町の道の駅「四季の館」にて、足湯ミニ講習会・足湯サロンを実施。 NPO 法人北海道 NPO サポートセンター主催「情報共有会議」に参加。 むかわ町春日地区の自主避難所「春日生活館」の閉所式にて、足湯サロンを実施。厚真町・安平町内の避難所でも足湯サロンを開始。	
	10/6	北海道足湯隊・発足に向けた合同ミーティングに参加（浦野・吉林）	
	10/8～12	むかわ町・厚真町内の避難所にて足湯サロンを実施。	
	10/31	北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。	
	11/2	厚真町内の避難所にて足湯サロンを実施・サポート。	
	11/3	厚真町ルーラル地区にて「今後の生活再建を考える無料相談会」を実施。	
	11/24	むかわ町大原仮設住宅にて「仮設住宅 住まい方講習会」を実施。	
	11/29～31	むかわ町大原仮設住宅にて「仮設住宅 住まい方講習会」アフターヒアリングを実施。（浦野・震災がつなぐ全国ネットワーク松山） 北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。（浦野・吉林・震つな松山）	
	12/15	むかわ町大原仮設住宅にて「収納棚の取り付け」を実施。	
	12/16	厚真町ルーラル地区にて「今後の生活再建を考える第2回無料相談会」実施。	
	1/19・21	安平町早来仮設住宅にて足湯サロンを実施。（認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワークと合同）	
	2019年	1/21	北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。（浦野・吉林）
		2/18	安平町早来仮設住宅にて足湯サロンをサポート。（認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワークと合同）
2/19		むかわ町大原仮設住宅、同町春日地区の春日生活館にてミニお茶会を実施。（真宗大谷派・災害支援ネットワークじゃがネットと合同）	
2/20		北海道足湯隊・合同ミーティングへ参加。	
2/21		むかわ町のホテルで震度 5 強を経験。一般社団法人 Wellbe Design スタッフとともにむかわ町役場にて情報収集を行う。	
2/22		繋がりのある被災者宅（5 世帯）を個別訪問した。	
3/1～2		安平町早来仮設・追分仮設にて「収納棚の無料取り付け・サロン活動」を実施。（吉林・震つな松山）	
3/20		北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。	
4/24		北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。（浦野・吉林）	
5/15～18		むかわ町穂別地区にて足湯サロンをサポート。（北海道足湯隊・一般社団法人いっぽんとの合同企画）	
5/29		北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。	
6/16		足湯ボランティアフォーラムを実施。約 30 名が参加。	
6/27		北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。	
7/20		むかわ町の法城寺にて足湯サロンの活動サポート（北海道足湯隊・パステルアート講師・一般社団法人いっぽんと合同企画）	
7/26		北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。（浦野・吉林）	
7/28		むかわ町穂別地区にて足湯サロンの活動サポート。	
8/4		むかわ町春日地区にて訪問型足湯を実施。	
8/28	北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。（浦野・吉林）		
9/6	安平町役場主催・復興祈念式典に出席。		
9/8	むかわ町の法城寺にて足湯サロンの活動サポート		
9/25	北海道足湯隊・合同ミーティングに参加。（浦野・吉林）		

避難生活の環境改善

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）からの要請を受け、震度6強の被害を受けたむかわ町を中心に、避難施設のレイアウトの検討、段ボールベッド・寝具の導入、自主運営に向けた過去の被災地の取り組み事例の情報提供などを行いました。



また、むかわ町「救護班」が毎日開催するミーティングに出席し、医療・保健の専門職と情報共有を行いました。RSYからは、足湯で住民の方々がお話しされた「つぶやき」の中から必要に応じて支援を検討し、具体的な対応に繋がりました。



避難所での足湯・足湯ミニ講習会

被災者のニーズ把握や、避難生活での心身の活力低下防止、安心して心の内を話せる場づくりとして、被災3町の避難所で足湯を実施。この取り組みに賛同して下さった地元のボランティア団体の方々に、「足湯ミニ講習会」も開催。この取り組みが、後の「北海道足湯隊」発足に繋がりました。足湯スペースに来るのが難しい方には、居住スペースまで出向く出張型足

湯で対応。足湯を終えた後は、温かいコーヒーやお抹茶を囲み、ゆったりとした時間を過ごしなが、個々の家の片づけ状況や避難生活の食事の話、漠然と抱える先の不安などについてお話し頂きました。

北海道足湯隊は現在までに約260回、500人以上の足を温めています。



仮設住宅暮らし方講習会

11月24日（土）にむかわ町大原仮設住宅にて、「ちょっとした工夫でお家をもっと快適に！仮設住宅暮らし方講習会」を実施しました。2011年東日本大震災で被災し、宮城県七ヶ浜で4年間仮設住宅での暮らしを経験した渡辺功さん（大工）・洋子さんご夫婦をゲストにお招きしました。収納の工夫や住まい方の心構えのお話し、地元支援者向けに棚の取り付けのコツをレクチャーしていただきました。当日は8世帯（25世帯中）が参加。中には「自分でやってみる！」と部材の提供のみを希望された方も。追

加で取り付けて欲しいという希望の声もあり、12月に第2弾を実施しました。

講習会参加者からは「実際に取り付けた棚を見られてイメージしやすかった」「棚の取り付け以外に、冷蔵庫や洗濯機の配置を工夫すると限られたスペースでも広く使える」などの声が聞かれました。また「うちの物音とかご迷惑かけていないかしら？」など、普段なかなか聞きにくい話題を話す場にもなり、今後の暮らしに向けた準備に繋がりました。



収納棚の取り付けプログラム&食事サロン

11月にむかわ町大原仮設住宅で開催した『仮設住宅暮らし方講習会』をきっかけに、3月3日（日）安平町内の仮設住宅（早来・追分地区の2か所）でも「収納棚の取り付けプログラム&お食事サロン」を開催し、約15世帯へ収納棚の取り付けを行いました。事前に住民から希望を受け、当日は地元の作業系ボランティアが1軒1軒お宅を訪問し、希望の取り付け位置を伺いながら、回りました。各仮設住宅の談話室でも、北海道足湯隊による足湯や地元町内会の皆さんにご協力いただき、昼食会も同時開催。今回の実施にあたり、安平町社会福祉協議会や地元町内会、道内のボランティアが活動したことで、地元を中心としたアフターフォローが可能となりました。半年以上が経過した時期でしたが、道内外から多くのボランティア

が訪れたことで「被災地で何とか踏ん張っている住民を忘れていない、少しでもお手伝いしたい」という気持ちが伝わり、被災者の安心感や、関係の深まりに繋がっていました。





【ご協力いただいた皆様】

- ・安平町役場
- 作業系ボランティア
(部材の切り出し・棚の取り付け・設置指導)
 - ・石狩思いやりの心届け隊
 - ・一般社団法人いっぽん、
 - ・道内ボランティアの皆様（小西穰氏・田中楓氏・吉田圭介氏・高橋由利子氏）
 - ・米田典勇氏（地元ボランティア）
 - ・風組関東
 - ・震災がつなぐ全国ネットワーク
- 場づくりボランティア（炊き出し・足湯サロン）
 - ・北進自治会
 - ・青葉町内会

- ・北海道足湯隊（災害支援ネットワークじゃがネット/札幌市立大学学生・教員有志/ヘルピングハンズ足湯隊/北海道 NPO サボセン足湯チーム/一般社団法人北海道介護福祉士会/一般財団法人北海道難病連/Wellbe Design 足湯チーム/東北大学足湯隊/認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク/認定 NPO 法人レスキューストックヤード)
- ニーズ把握
 - ・社会福祉法人安平町社会福祉協議会
 - ・認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク
 - ・一般社団法人いっぽん
- 現地コーディネート
 - ・一般社団法人 Wellbe Design

今後の生活再建を考える無料相談会

震災により大きな地滑りが発生した厚真町ルーラルビレッジ。住民から被害拡大の可能性や、自宅修繕の見通しについての疑問や不安の声が上がりました。そこで、11月3日（土）・12月16日（日）に工務店や弁護士などの専門家が同席し、個別相談を実施。会場では、北海道足湯隊など地元支援者の協力を得ながら、炊き出し・足湯・喫茶を提供する休憩スペースを設け、リラックスしながら安心しておしゃべりができる場を提供。（2回開催・62名が参加）ホッとした表情を見せる方も多くいらっしゃいました。

【ご協力いただいた皆様】

- ・北海道みらい法律事務所・増川拓氏（弁護士）
- ・ニチハグループ(株)FP コーポレーション
脇田氏・五十嵐氏・氏家氏
- ・日特建設(株)技術本部・上野雄一氏（技術士）
- ・災害支援ネットワーク北海道本部・チームやんじー



- ・北海道足湯隊(Wellbe Design 足湯チーム)
- ・そばで加わるネットワーク
- ・真宗大谷派 災害支援ネットワークじゃがネット、
- ・一般社団法人 北海道精神保健福祉士協会
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク

足湯を通じた場づくり支援

発災から約 20 日後、複数の避難所で取り組み始めた「足湯&お茶会」。断続的な余震も続いていたことから、避難所では「家の中の片づけを早く進めたいのに、余震が怖くて家に戻れない」と強いストレスを感じている方も少なくありませんでした。そんな方々がほっと一息つける場になるよう、東北大学や震つなの加盟団体の認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワークと取り組み始めました。RSY では、むかわ町役場「救護班」は実施するミーティングに出席し、場づくりを



通じて聞かれた住民の生の声「つぶやき」を中心に、医療・保健の専門職と情報共有を行うなど、具体的な支援に繋がっていきました。

避難所が閉所された後も、場づくり支援の必要性を感じていたため、地元の支援団体で豊富なネットワークをもつ、NPO 法人北海道 NPO サポートセンターや一般社団法人 Wellbe Design を通じ、道内のボランティアを募り、生活支援プログラム（場づくり）が途絶えないよう働きかけました。



北海道足湯隊の発足

2018 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震の被害を受けた、安平町・厚真町・むかわ町において、長期化する避難生活における心身へのケアに取り組み、被災者個々に寄り添う支援として、避難所・応急仮設住宅の談話室、お寺、地域の集会施設などで「足

湯」を行っています。これらの足湯活動を行う複数の構成団体によって、「北海道足湯隊」が組織され、継続的な活動を展開しています。RSY はアドバイザー団体として、関わっています。

■構成団体（13 団体）

- ・札幌市立大学／学生・教員有志
- ・NPO 法人北海道 NPO サポートセンター
- ・一般社団法人いっぽん
- ・一般社団法人北海道介護福祉士会
- ・一般財団法人北海道難病連
- ・一般社団法人北海道精神保健福祉士協会
- ・末日聖徒イエス・キリスト教会
／ヘルピングハンズ足湯隊
- ・真宗大谷派北海道教区
／災害支援ネットワークじゃがネット

- ・札幌発！東北大好き隊
- ・一般社団法人 Wellbe Design
／Wellbe Design 足湯チーム
- ・認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク
- ・東北大学足湯隊
- ・認定 NPO 法人レスキューストックヤード

■連携団体

- ・天使のつめきり札幌

つぶやき（被災者の生の声）の紹介

【発災から20日～1か月後】

- ・半身まひで遠くまで一人で移動できない。でも体がなまるといけないから、自分で部屋を行ったり来たり歩いている。でも目的無くひたすら歩くのもねえ。自分で動けないから、こうして地図を広げて想像力を働かせて、色んな場所に行った気になっているの。(70代・男性・避難所)
- ・自宅はもう住めない。家族が片付けてくれてるが、時間をかけてゆっくり整理したいものがあるのに、バンバン捨てられるからやるせない。食器、パッチワークの布、洋服など、自分にとっては大切に集めてきたものだけど、分かってもらえない。片付けは自分でやりたいから、そのままにしといてって言うてるの。(80代・女性・在宅)
- ・まだ水が出ていないのがとても困っている。娘2人ともとても怯えていて、母親の自分が頑張ってきたけど、最近疲れが溜まっているのかしら？疲れが抜けない。生理痛がひどくて辛いし、衛生面も気になる。(30代・女性・在宅)
- ・もう疲れ切った。夜3時になると毎日必ず目が覚めるの。その時胸がキューッと痛くて苦しくなって。地震の時、「ドーン、ガガガガガッ」っていうものすごい大きな音がしてね。本当に怖かった。これから私たちどうなっちゃうのかしら。でもお話し聞いてもらえて、少し心が軽くなった気がします。ありがとう。(60代・女性・在宅)

【発災から2か月後】

- ・この間、震災後に久しぶりに医者に行った時も、思ったより数値が悪くなってなくてホッとした。今一番心配なのは、水道の凍結だね。部屋は暖かいのだけど、水道が止まったらトイレも料理も何もできなくなるから。ここはマイナス15度まで下がるから、今からこんな調子で本当に大丈夫かと不安になる。(60代・男性・仮設住宅)
- ・今日家の解体に立ち会ってきた。目立つ場所にあるからマスコミにもよく取材されたよ。一応大事な物は取りだせたけど、全部は無理だよ。仮設では置き場所もないし。だからちょっとした棚があると便利でいいよ。(70代・男性・仮設住宅)
- ・揺れたね。怪我なく無事だよ。物が落ちたりとかはなかったけど、テレビが倒れたね。ちょうど眠くてウトウトしてたから、テレビが倒れてびっくりした。一瞬電気が消えて、うわーと思ったら、テレビと一緒について、地震速報が流れてたよ。役場の保健師さんが来てくれたから、その後、安心して眠れた。朝も来てくれたんだよ。地震は震度が1違うだけで、10倍違うっていうのを実感した。9月の地震の時と比べたら、今回の地震は強さが全然違った。(70代・男性・仮設住宅) ※2月21日の余震発生直後の訪問
- ・物が落ちることもなくて、お皿は数枚割れた程度。あの地震のあと(9月)、物を積み上げたり、高いところに置かなくなった。ご近所さんもそうだと思う。電気が消えたけど、すぐついて。また断水するかもって思っ、水が出ているうちに近くにあった容器に水を溜めておいたんだ。今朝も問題なく水が出てるから、ひと安心かな。(70代/女性/在宅) ※2月21日の余震発生直後の訪問

【発災から1年後】

- ・地震当時のことを思い出すと今でも涙が出てくる。本当に来てくれて嬉しい。私にも何か出来ることはないかなと思ったりして、前回足湯(する側)に参加させてもらった。体調を崩してしまい今回は足湯してもらいに。足湯が効くと聞きました。(30代女性・在宅避難者)
- ・1年か。あつという間のような、長かったような…。地震に遭って、いろんなことがあったけど、避難所に避難していた頃の記憶が一番印象に残っているよ。しばらくあそこには(避難所だった建物)行けなかったもんな。(70代・男性・仮設住宅)

広げよう！足湯で繋がる支援の輪 足湯ボランティアフォーラム in 北海道

6月16日(日)10:00~16:00、真宗大谷派(東本願寺)札幌別院にて、「広げよう！足湯で繋がる支援の輪 足湯ボランティアフォーラム in 北海道～北海道胆振東部地震の今とこれからを考える～」を開催しました。



北海道胆振東部地震の発生を機に、道内の支援団体・個人で結成された「北海道足湯隊」。そのメンバーが「今後も息長く被災者に寄り添う活動を続けたい。そのために、より多くの方に足湯ボランティアを知ってもらいたい。」という願いから生まれた企画です。本企画では、足湯ボランティアの始まりと本質、前年に発生した災害の被災地で展開された足湯ボランティア活動を振り返りました。さらに足湯体験を盛り込み、足湯づくしの1日となりました。約30名にご参加いただきました。

第1部では、NPO法人北海道NPOサポートセンターの定森氏より、北海道胆振東部地震の現状と課題についての報告、平成30年7月豪雨の被災地(5か所)で活躍した支援者5名より、活動内容の報告と今後の課題について事例提供いただきました。

第2部では、被災地NGO協働センターの村井氏より「足湯ボランティアの本質を考える」をテーマにした基調講演、1日のプログラムを振り返る「交流会」を行いました。

足湯ボランティアは、1995年阪神・淡路大震災から今回の北海道胆振東部地震まで全国各地の被災地で取り組まれてきました。村井氏からは、足湯ボランティアの始まりや強み、「つぶやき(被災者の生の声の記録)」が被災者へもたらした支援事例を紹介いた

だきました。最後には、『ただひたすらに被災者に寄り添い、「枠を外して」制限をもたず、それぞれに出来ることを自由にやっていくことで、活動は広がっていく。ボランティアはなんでもありや。被災者一人ひとりへの寄り添い、それを積み重ねていくことが、社会の隙間に取りこぼされてしまいがちな最後の1人までも救うことに繋がっている。その苗床を北海道はじめ全国各地でつくっているのは、まさにあなたたちだ。』という力強いメッセージをいただきました。



交流会では、「今回の地震を機に災害ボランティアを始めた。1日を通して、ボランティアの根本的な部分を学ぶことができた」「今後も『最後の一人まで』を重点に活動を続けていきたい」「活動の中で住民から『うちよりも被害の大きいお宅があるから・・・』と言われることが多いが、そう話すことで、『自分はまだ大丈夫、頑張れる』と言い聞かせているのかもしれない。足湯は自然と被災者一人ひとりの声を丁寧に見つめることができる活動だ」という声が聞かれ、道内外のボランティアの繋がりが深まり、北海道足湯隊のモチベーションの向上にも繋がりました。



【登壇者】

- ・定森光氏(NPO 法人北海道 NPO サポートセンター)
- ・加藤真樹氏(真宗大谷派東本願寺北海道教務所)
- ・篠原辰二氏(一般社団法人 Wellbe Design
／北海道足湯隊事務局)
- ・村井雅清氏(被災地 NGO 協働センター)
- ・松田曜子氏(震災がつなぐ全国ネットワーク)

【パネリスト】

- ・本田綾子氏(北海道足湯隊)
- ・大竹修氏(被災支援団体おたがいさまプロジェクト)
- ・玉木優吾氏(しずおか茶の国会議)
- ・飯嶋麻里氏(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)
- ・吉林奏(認定 NPO 法人レスキューストックヤード)

【ご協力いただいた皆様】

- ・北海道足湯隊(災害支援ネットワークじゃがネット/
札幌市立大学学生・教員有志/ヘルピングハンズ足湯隊/
北海道 NPO サボセン足湯チーム/一般社団法人北海道
介護福祉士会/一般財団法人北海道難病連
/WellbeDesign 足湯チーム/一般社団法人いっぽん/札幌
発! 東北大好き隊/東北大学足湯隊/認定 NPO 法人とちぎ
ボランティアネットワーク/認定 NPO 法人レスキュー
ストックヤード)
- ・一般社団法人 Wellbe Design
- ・NPO 法人北海道 NPO サポートセンター
- ・真宗大谷派(東本願寺)北海道教務所
- ・真宗大谷派(東本願寺)札幌別院

【主催】 認定 NPO 法人レスキューストックヤード

【共催】 震災がつなぐ全国ネットワーク



うるうるパックの発送

一人ひとりの暮らしの状況についてお聞きするコミュニケーションツールとして、「うるうるパック」を100セットお届けしました。今回は厚真町で、支援の届きにくかった在宅被災者の訪問ツールとして活用され、「うるうるパック」のおかげで訪問がしやすくなったとのことでした。

訪問をすることで、精神的な不安を抱えている方、生活の困りごとがある方、新たな被災家屋を発見するなどのニーズを抱えていたことが明らかになり(訪問した世帯の約15%)、それぞれ専門機関に繋ぎ支援

を展開することができました



ハーゲンダッツ&ユニー共同社会貢献活動

「被災地の子どもたちにおもちゃをプレゼントしよう！」贈呈式

4月19日、震災で被災した「むかわひかり認定子ども園」で、ハーゲンダッツジャパン株式会社とユニー株式会社の共同社会貢献活動『被災地の子どもたちにおもちゃをプレゼントしよう！』の贈呈式が行われました。これは、ハーゲンダッツのアイスクリーム1個の売り上げに対し、1円が寄付されるというドネーション企画です。RSYは企画コーディネイト役を務め

ました。園長先生からは、施設の被害概要や、震災の影響で運動会が開催できず、子ども達の思い出づくりや、体力低下などの心配があったこととお話し頂きました。新しいおもちゃと甘くておいしいハーゲンダッツのアイスの前に、子どもたちの興奮も最高潮。笑顔溢れる贈呈式となりました。



【コメント】

生協連合会アイチヨイス 理事長 大宮隆博

相次ぐ自然災害・・・ひとりひとりの被災者に寄り添い続けるレスキューストックヤードに感謝。

北海道胆振東部地震から1年・・・ブラウン管を通して見た赤茶色の山肌があらわになった山林の景色を今でも鮮明に覚えています。

その後も大きな被害をもたらす自然災害が相次ぎ、報道もめっきり少なくなりましたが、インフラの復旧、そして人々の暮らしが落ち着くまでに長い

時間がかかることもこれまでの経験により私たちは知っています。

そんな状況においても、ひとつひとつの災害、被災地、ひとりひとりの被災者に寄り添い続けるレスキューストックヤードの皆さんの力はもはや日本になくてはならないものだと思います。これからもよろしくお願いいたします。

NPO 法人北海道 NPO サポートセンター 理事 定森光

北海道は大きな災害に見舞われた経験が少なく、道内NPOの災害支援の経験はあまりありませんでした。全国各地で被災地支援の経験があるRSYの活動からは多くのことを学ばせて頂きました。特に、一人ひとりの声、つぶやきを丹念に拾い上げていく姿勢には、災害支援での大事な姿勢を教えてもらっただけでな

く、制度が取りこぼす事柄に向き合うというNPO活動の原点を見せてもらいました。

発災直後から1年経った今に至るまで北海道のためにご尽力頂いているRSYの皆さんに感謝です。そして引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原辰二

北海道への支援活動に際し、RSY を後方で支援する皆さまを含め、RSY に関係する皆様に心より感謝申し上げます。胆振は私が生まれ育った地域であり、特に被害の大きい厚真町は幼少期に祖父母が暮らしていた想い入れのある地です。RSY の皆様とは過去の被災地で何度も顔をあわせており、発災直後にお会いしたときには大きな安心を得たことを記憶しています。避

難所の環境改善や足湯隊へのサポート、被災者や地元支援者との関係構築など、丁寧かつ迅速な対応をいただいたことは、被災地域で活動する私たちにも大きな後ろ盾になりました。発災から1年が経過し、今後の北海道への関わりも変化してくると思いますが、引き続きご支援をお願いいたします。



石狩思いやりの心届け隊 隊長 熊谷雅之

北海道胆振東部大地震の際には全国の皆様よりたくさんのご支援をいただき本当に感謝申し上げます。私達道民は災害支援に不慣れなところ、レスキューストックヤードさん等の団体にハード面だけではなく、心の支えの大切さなど多くの学びをいただいたと同時に、たくさん仲間と出会うことができたことを本

当に感謝しております。極寒地であり積雪地帯。農業王国の北海道で、北海道ならではの支援が必要と感じた。今回の災害で北海道技術系ネットワークとして他県での事例や仲間達との連携で今後も笑顔の生まれる活動を目指していきたいとおもいます。



真宗大谷派（東本願寺） 災害支援ネットワークじゃがネット 岸田理

RSY との出遇いが「地域での活動」のきっかけとなりました。我々「じゃがネット」は真宗大谷派(本山・東本願寺)の北海道教区における外郭団体であり、発災当初は被災寺院に関連する情報の提供や支援活動が中心でした。こうした中で「寺院の復興は地域の復興と同義」という思いを持ちながらも、被災地域に対して出来ることの少なさをもどかしく思っていたと

ころ、繋いでいただいた「ルーラルビレッジ(厚真町)」は現在進行形で続いている我々の活動中心地となり「地域」とつながる大切な場所となっています。「人の声を聴き、繋がり続ける」RSY(吉林さん)に見せていただいた姿があります。この事を励みにこれからも歩み続けたいと思います。



むかわ町健康福祉課保健介護グループ 主幹 今井喜代子

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震から1年が経過しました。

震災時には、多くのボランティア団体から支援をいただき深謝いたします。

RSYの方々には、避難所での段ボールベッドの配置や環境整備、仮設住宅の棚の取り付けや物資提供、仮設住宅経験者の体験談開催など、過去の被災地での

経験を基にした助言や被災者の生活に寄り添った支援をしていただき、震災対応経験のない自治体職員にとってはとても心強かったです。

現在でも住宅が未修繕の方や、音や揺れへの過敏など心のケアが必要な方も多い状況があり、町・社協・ボランティア団体協働での長期的な支援が必要となりますので、今後ともよろしくお願いたします。



むかわ町大原仮設住宅 代表 深根由章

昨年11月初旬に避難所から仮設住宅に移り、現在は仮設住宅の代表をしています。以前住んでいた家と比べると狭く感じることもあります。最近慣れてきて、仮設住宅の提供はとて有難かったです。被災した自宅から家財道具などを取り出しましたが、仮設に入るとき、余分なものは持ち込まないようにしていたため、限られたスペースで生活できています。

もともと自営業で数年前に店を閉め、身の回りの物を整理していたところ、地震に遭いました。今思えば、もう少し時間をかけて、自分たちの気持ちに整理をつけながら、今後のことを考えたかったです。自宅（兼店舗）の土地は親たちから受け継いだもので、「土地を守れず、親たちには悪かった」という気持ちがあります。自然災害だからしょうがない、元には戻せない

のだと実感しました。

RSYとの出会いは、避難所での足湯。避難当初は自分でも意外なほど動揺していました。いろんな方とお話することで、気持ちの整理ができました。昨年11月に取り付けてもらった棚も重宝しており、自分で取り付けようにも、取り付け可能な位置が分からず、なかなか出来ないでいました。仮設は借りものだから、きれいにお返したいと思っています。

地震をきっかけに、どこかでバッタリ会うことがなければ出会えないような人たちとの繋がりが出来ました。これからも、むかわ町に居続けたいと考えています。発災当初は特に、以前から築いてきた人間関係が助けになり、いろんな方々に本当にお世話になりました。これからもよろしくお願いします。

厚真町ルーラルビレッジ住民 丸山聡史

昨年、9月6日に胆振東部地震にて被災。特にこのルーラル地区は地域住民が避難所に避難せず、自宅での自主避難を選択した地区でした。半数近くの住民が壊れた家での自主避難となった状態でした。

一か月近くもの断水も乗り越えようやく日常生活に戻りつつある時、どうやらルーラル地区の地盤が地震によりひどい状態になっており、自宅を再建するのは簡単ではないという不安を感じ始めていました。さらに、町とは避難所認定されなかったことによる不信感もあった状態でした。また、避難生活時は比較的近隣の交流が出来てましたが、この時期にはほとんど家の生活が主となり交流がない状態であり、孤独による不安や寂しさを抱えている住民は多くみられました。

この時にいち早くRSYさんの協力により、家屋再建や生活再建にむけた学習会が開催されたことにより住民の方々からは一定の不安は解消され、復旧していく道筋が見えたと感じました。また、学習会や足湯などを開催してもらうことにより地域住民の集まる場の提供となりました。交流が再開されたことに

より、不安なことや寂しさが共有されお互い頑張つて再建していこうと希望が湧いてきたことを思い出されます。さらに、事前学習会を開いたおかげで町の住民説明会では有意義は意見交流や要望がだされたことも大きかったです。

RSYさんにはその時の状況に適した情報やサービスを提供していただいたことがとても住民の方の精神的なサポートになっていたと思っています。いつもルーラル地区の思いを考えていてくれたと感謝しています。

震災後1年たちましたが、まだまだ住宅問題は解決していない状態です。今後とも住民の支えとなるサポートをお願いしたいと思います。





北海道足湯隊（Wellbe Design チーム）本田綾子

北海道足湯隊結成の際、ご縁があって声をかけていただき、発災から約 1 ヶ月後に初めて足湯ボランティアに参加しました。

それまで災害ボランティアセンターでボランティアをしていたわたしにとって、避難所内で活動することに若干の抵抗もあり、とても緊張したことを覚えています。しかし活動を通して、被災された方のそばでゆっくりお話ができるという場に足湯ボランティアの本当の意味を知り、その後も参加回数を重ねていく

こととなりました。

北海道で足湯活動を続けていくにあたり、レスキューストックヤードのみなさまをはじめ、北海道外の団体の方からも多くの支援をいただけてきました。今では避難所から仮設住宅の談話室、地域の集会所など、少しずつ場所ややり方が変化していきますが、今後も北海道内外のみなさまと連携しながら、北海道らしいかたちで、地域の方々に寄り添った活動を続けていきたいと思っています。



北海道足湯隊（Wellbe Design チーム）鈴木幸子

この 1 年足湯隊員として、自分の出来ることを出来る時に活動してきました。堰を切ったように話されるお母さんたち、「地震の後から夜眠れなくてさ・・・」とぼつりぼつりと話す男性。災害が無ければ出会えることのなかった方々が、初対面の私にもたくさんのことを話して下さる「足湯効果」を実感しています。

触れ合い、お茶を楽しみ、一緒に時間を過ごす事で、自分も癒され元気をいただくことが多く、次の活動へのエネルギーにつながっています。

北海道足湯隊は複数の団体が集結し、「マッサージケアと足湯」「パステルアートと足湯」のコラボ活動や、現地への移動の協力体制が特徴であり強みだと思います。

RSY のスタッフの方々が、各団体の連携や調整に奮闘して下さい今の活動があると思います。

日本各地で次々と災害が発生していますが、胆振東部地震で被災された方々のお声を聴き、寄り添える活動をこれからも続けて行きたいと思っています。



北海道足湯隊（東北大好き隊）渡部結香子

胆振東部地震から月日が経ち、社協のボラセンからの募集も無くなってきた頃。被災地ではまだ辛い思いをしている方がたくさんいるのに、私にはできることが何もないと途方に暮れていました。

私は、ただの主婦で、資格も技術も無いからです。そんな時、足湯の存在を知りました。初めて足湯隊として被災地へ行った時のこと。緊張し

つつも心を込めて手もみをしていると、最後に被災者さんが、私の手をぎゅうっと握り返して下さり、手から手へ優しさや感謝が温もりと一緒に伝わってくる感覚に、私の心もじんわり熱くなりました。

災害が多い昨今、これからは北海道足湯隊として心と身体を温める活動を全国でしてまいります。

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

北海道胆振東部地震 被災者支援活動報告書

2019年9月30日発行

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード
名古屋事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2階

tel 052-253-7550

fax 052-253-7552

e-mail info@rsy-nagoya.com

web <http://rsy-nagoya.com/>

twitter rescuestockyard

facebook rsy.nagoya

※本冊子は、赤い羽根共同募金「北海道胆振東部地震における災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成を受け、発行しています。

